

ニュージーランド中銀は中立的な金融政策姿勢を示す

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置き。金利据え置きは15会合連続。
- オア総裁は20年にかけての金利据え置き見通しを維持。当面は中立的な金融政策姿勢を採る方針を明確に示す。
- 四半期金融政策報告での政策金利予想では、利上げ開始の予想時期が20年後半から21年初に先送りされる。
- NZドル相場はRBNZによる将来的な利上げバイアスの維持を好感。今後は雇用安定が物価上昇に繋がるかが焦点に。

RBNZは中立的な金融政策姿勢を明確に示す

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は2月13日、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置く決定を下しました。金利据え置きは15会合連続となりました。

エイドリアン・オア総裁は声明文において、2019年から2020年にかけて政策金利を現行水準で据え置く見通しを維持しました。また、オア総裁は、今後の政策金利の変更は利上げも利下げもあり得ると述べ、改めて中立的な金融政策姿勢を明確に示しました。

RBNZは利上げ開始時期を2021年初に先送り

今回、RBNZが公表した「四半期金融政策報告」では、利上げ開始時期の予想が従来の「2020年後半」から「2021年初」に先送りされました(図1)。

RBNZが当面の中立的な金融政策姿勢を示唆しながらも、将来的な利上げバイアスを維持したことで、2月13日のNZドル相場は対米ドルで1NZドル=6.8米ドル近辺、対円で1NZドル=75円近辺まで上昇する反応を示しました。

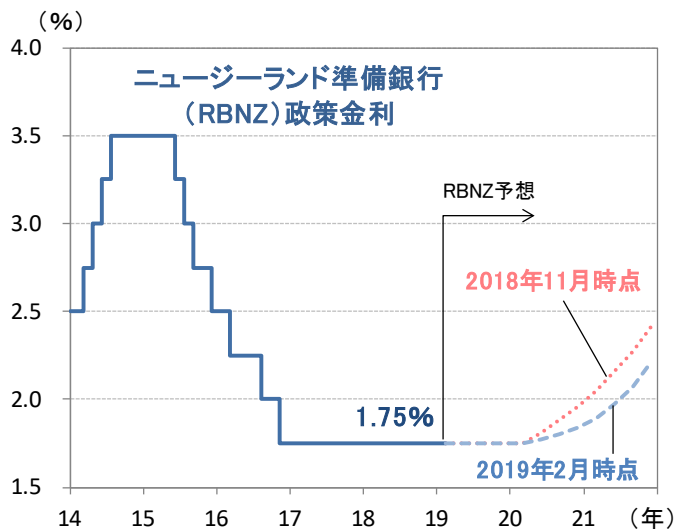
雇用安定が物価上昇に繋がるかが今後の焦点に

また、オア総裁は「雇用は持続可能な最大限の水準にある」と雇用環境の安定への自信を示した一方、コア・インフレ率が2%の物価目標中心値を下回っていることを緩和的な金融政策を継続する理由として挙げました。

ニュージーランドの失業率は直近2018年10-12月期時点で4.3%の低水準にあり、RBNZによれば2021年に向けて失業率の安定基調が続くと予想されています(図2)。雇用環境の安定が物価上昇に繋がるかどうか、今後のRBNZの金融政策決定の焦点となりそうです。

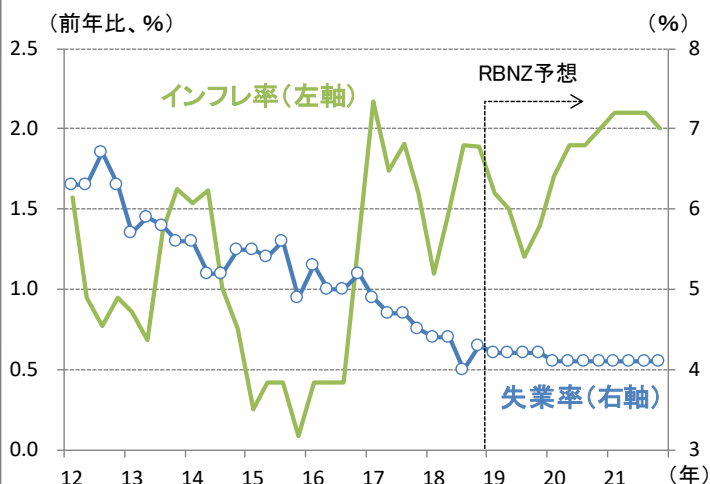
RBNZはニュージーランドのインフレ率は2020年末頃には物価目標中心値の2%へ上昇すると予想しており、企業がコスト上昇を販売価格に転嫁し始めれば、物価上昇圧力が一段と増す可能性があるとも指摘しています。

図1:ニュージーランドの政策金利



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)
(期間)政策金利:2014年1月3日~2019年2月13日

図2:ニュージーランドの失業率とインフレ率



(出所)RBNZ、ニュージーランド統計局
(期間)2012年1-3月~2018年10-12月